

校名：和歌山大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒641-0031 和歌山県和歌山市西小二里2丁目5-18

電話番号：073-444-1080

記載日：平成28年 5月20日

記載者：井川勝利

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について

本校は、今年度（平成28年度）開校40周年を迎え、「個々の児童生徒に応じた教育を行い、積極的に社会参加できる人格を育成する」という教育目標のもと、これまでの伝統の上により良い教育を行っています。

本校の任務

- (1) 学校教育法に基づき、知的障害のある児童生徒に、小学部、中学部、高等部にわたって一貫した教育を行う。
- (2) 大学の附属校として、教育の理論及び実際についての研究・実証を行い、学生の教育実習に資する。
- (3) 地方教育に協力する。

上記3つの任務の上により良い環境のもとで、一人一人に応じた教育とともに、小学部・中学部・高等部を通じて一貫した教育を行っています。

上記の学校経営とともに、以下の更なる任務を果たしています。

- (1) 和歌山大学は、和歌山県教育委員会と平成12年度から連携協議会を立ち上げ、平成22年度からは「実践的地域連携教育推進事業」を実施しています。また、地域に根ざした教員養成学部としての“パワーアップ”と、地域の教育の発展と充実に寄与する試みとして、これらを学部の特徴的な活動と位置付けています。

また、和歌山市教育委員会と、平成23年に包括的な連携協定を結んで以降、教育実習・ボランティア派遣・現職研修・学校の教育研究などで連携・協働を進めてきており、教員養成・研修・学校支援の各分野で成果を出しています。

- (2) 附属特別支援学校を含む和歌山市内の第5教育ブロック（本校を中心とした4km圏内にあたる地域）においては、本校小・中学校学部が長期にわたって交流及び共同学習を進めてきている学校園があります。また、ブロック内の学校における、通常の学級に在籍する特別支援教育の必要な児童生徒に対し、個々の障害の状態に応じた適切な教育を行うための、合理的配慮の観点から学校全体で取り組む指導内容・指導体制についての支援を行っています。

- (3) 附属特別支援学校の近隣地域には、本校が連携している教育・医療・療育・保健・行政・労働等の関係機関が存在しており、これら地域資源を生かし、資源を組み合わせること（クラスター）で、ネットワークの中で地域の教育課題を共有し、地域の各学校が自校でエンパワーメントしていけるように、地域の学校のパートナーとしての役割を果たしていくべく教育相談及び巡回相談を実施しています。

貴校の卒業生の活躍状況について

本校の校務分掌に進路指導部を置き、定期的に卒業生の進路先を訪問するとともに、アフターケアにも努めています。卒業生の進路先等については、進路指導部がほぼ把握しています。一般就労をはじめ、就労継続支援 A 型事業所や B 型事業所、就労移行支援事業所等様々な分野で社会参加と自立に向け活躍しています。

また、本校卒業生全員が同窓会に所属し、様々な交流行事や同窓会クラブに参加するとともに、交流を深め、学校全体で支援しています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

本校から県教育委員会事務局職員や公立小・中・特別支援学校の管理職として活躍している他、公立学校で指導的立場として活躍している方がいます。なお、学校において活躍状況を把握するように努めています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

1【スクールクラスターを活用した取組を支援するために行った取組や工夫】

(1) 「ライフステージサポートセンター」の設置

- ・教育相談事業、研修事業、連携事業などを総括し、サポートを必要とする学校や関係機関をコーディネートしていく地域のサポートセンターとなる「ライフステージサポートセンター」を本校に設置しています。
- ・センター内には、コンサルテーションなどのキーパーソンとなる「地域支援マネジメントメンター」（合理的配慮協力員）を置き、地域の巡回相談に当たり、本校職員との窓口となる特別支援教育センター委員会(本校内の委員会)のスタッフや本学教育学部特別支援教育学教室の大学教員などと連携をとり、事業を推進しています。

(2) 「サブ・ケアシステムの会」の実施で連携を強化

近年は、「一貫した支援と連携」をテーマに、本校周辺地域の関係機関の職員と協議を行っています。本校が有するクラスターの中から話題提供者として招いた県立高校の特別支援教育コーディネーター、(市)子ども総合支援センターの職員、(市)保健センターの発達相談員等から、ライフステージで把握しておくべきポイントについて多くの示唆を得ています。

(3) 公開講座の充実による教職員、関係者の専門性の向上

- ・地域における教員の専門性の向上を目指して、公開講座を年 2 回（春と夏）、地域の公共施設で開催しています。
- 例えば、
- ・第 1 回講座は、和歌山市教育委員会と連携し、新任特別支援学級担当教員等の基本研修や特別支援教育担当者育成研修としても実施しました。
- ・第 2 回講座は、本校が有するクラスターの中から、地域のニーズに応じた関係分野（医療、福祉、心理）より講師を招き、講演会と分科会を実施しています。保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校からの教員だけでなく、作業療法士や行政からの参加者があり、支援の必要がある児童生徒等への理解を深めました。

2【附属小・中学校との連携】

インクルーシブ教育を進めていく上でもキーパーソンとなる特別支援教育コーディネーターが集まって話し合う場を作るため、「附属3校（小学校、中学校、特別支援学校）の特別支援教育コーディネーターの会」を設置しました。学校が有する独自の課題と共通する課題を整理し、附属3校のクラスター活用と合理的配慮に基づく支援について情報交換を行い、地域における連携モデルづくりを目指しています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

通常学級に在籍する気になる児童生徒への巡回相談や「サブ・ケアシステムの会」を通して、各校における管理職及び担任や特別支援教育コーディネーターの特別支援教育に関しての意識が高まり、教員の専門性や対応力の向上につながることができています。地域の小・中学校では、基礎的環境整備の中で、関係機関とのつながりが少なかった学校が多かったこともあり、連携を進めることができています。

また、公開講座を通して、特別支援教育やインクルーシブ教育の啓発と教職員の理解が進み、専門性の向上を図ることもできており、「附属3校の特別支援教育コーディネーターの会」では、今後、近隣の小・中学校への展開にモデル校としての役割を果たすことができると考えています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属特別支援学校が連携している地域資源を生かし、資源を組み合わせること(クラスター)で、ネットワークの中で地域の教育課題を共有し、地域の各学校が自校でエンパワーメントしていけるように、巡回相談等を通じて、地域の学校のパートナーとしての役割を果たしていくことが大切です。また、地域の教職員の専門性の向上のために、公開講座や「サブ・ケアシステムの会」(地域連携のための協議会)の実施、「附属3校の特別支援教育コーディネーターの会」の開催を通じて、学校が有する独自の課題と共通する課題を整理するとともに、附属3校のクラスターの活用と合理的配慮に基づく支援についての情報交換を行いながら、地域における連携モデルづくりを目指しています。

特別支援学校の果たすセンター的な機能とともに附属学校しかできない取り組みを続けていきたいと考えています。

和歌山大学教育学部附属特別支援学校

和歌山大学
教育学部



実践的地域連携教育推進事業

研究協力

学生の教育実習

- ・子どもの内面の育ちに視点を当てた授業づくり
- ・カリキュラム開発・・・「セルフデザイン」

- ・地域クラスターを活用した発達障害児のためのライフステージサポート事業
- ・発達障害等によるより困り感を持つ児童生徒が生き生きと社会参加するためのモデルカリキュラムとライフスキルプログラムのための実践研究事業

附属特別支援学校



附属小・中学校



附属3校コーディネーターの会



センター的役割

地域の幼稚園・小中学校

